

平成 30 年度 大阪産業大学附属高等学校 学校評価

1 めざす学校像

建学の精神「偉大なる平凡人たれ」は、平凡な日常生活をきちんと送っていくことこそ偉大なことである、地道にたゆまず努力していくことは偉大なことであると教えています。

日常生活の大切さ、努力の重要性を説く「偉大なる平凡人たれ」の建学の精神は、今、本校の次のような姿に現れています。

挨拶する声が響きあう学校。

夜遅くまで自習室で学習する生徒。

朝早くから自主練習に励むクラブ員。

生徒一人ひとりの努力をもっと励ましていける学校をつくっていきます。

2 中期的目標

1. 教学改革

- (1) カリキュラムの改定
- (2) 人格の形成をめざして
- (3) 生活指導の充実
- (4) 課外活動の活性化
- (5) 国際理解教育の推進
- (6) 大阪産業大学ファミリーの構築

2. 進路指導の発展

- (1) 進路指導部の充実
- (2) 附属高校から大阪産業大学への内部進学対策
- (3) 他大学への進学対策
- (4) キャリア教育の充実

3. 広報

- (1) 優秀な生徒の確保
- (2) 入試広報の充実
- (3) 入試渉外活動の充実

4. 人材育成

- (1) 優秀な職員の確保と研修の促進

5. 経営改革

- (1) 財政基盤の確立
- (2) 学校規模の適正化
- (3) 施設設備の充実

6. 防災・安全対策

- (1) 防災対策の徹底
- (2) 安全対策の徹底

7. 学校運営

- (1) コンプライアンスの遵守
- (2) 情報開示

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 31 年 1 月実施分]	学校評価委員会からの意見
○生徒 別紙「2018年度 アンケート結果のご報告」参照 ・「授業アンケート」の結果 ・「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果 ・「学校生活についてのアンケート」の結果	別紙「2018年度 学校関係者評価」参照

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教学改革	(1)カリキュラムの改定 ア. 設置科・コースの見直し	設置する普通科・国際科の各科・各コースの独自性を明確に打ち出し、特色を十分に活かした教育を実践します。 国際科については、平成 28 年度から改組しました。	平成 30 年度学校案内 グローバルコースサブパンフ	国際科について、平成 28 年度より特進コース・進学コースを一本化し、本来の意味での「グローバル人材」を育てるグローバルコースに改編しました。外国語大学・外国語学部への進学をめざすとともに、国際社会でも活躍できる主体性・積極性、チャレンジ精神を養うことができるよう、クラウドコンピューティングを導入し、「English Presentation」の授業、外国人留学生との交流プログラムを実施しました。
	イ. 年間行事計画の見直し	授業日数の確保を踏まえ、始業式・終業式等年間行事計画を見直します。	2019 年度年間行事予定表	行事委員会を組織し、2019 年度の年間行事について検討しました。
	ウ. 学習効果の検証	・授業アンケートの実施 ・授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケートの実施	アンケート結果	「生徒が主体的に学習に取り組むためにどのようにしていくのか」が本校の大きな課題となっており、引き続き取り組んでいきます。
	エ. 図書活動の強化	『「与える教育」から「考えさせる教育」へ』という教育実践目標の具体化として、図書館機能の充実と図書委員会の活性化を進め、図書活動の強化を図ります。	月 1 回の「Library News」の発行	学校司書の配置のもと、図書委員会活動が活発に行われています。年度初めに図書委員会を開催し、各クラスの図書委員に役割を与え、図書活動の強化を図りました。また、「Library News」に生徒による図書紹介や読書感想文を載せることでも図書活動の強化を図りました。
	オ. 全教室へのホワイトボード・電子黒板機能付きプロジェクター設置	年度末に全教室の約6割の教室に、ホワイトボード・電子黒板機能付きプロジェクターを設置。残りの教室には、次年度夏休みに設置を計画しています。		ホワイトボード・電子黒板機能付きプロジェクターの設置で ICT 教育を進めるハード面は整備されることとなります。これをどのように活用していくのが、課題となります。次年度には、「私はプロジェクターをこのように活用しています」との実践報告会を学期ごとに開くようにし、活用が普及するようしていきます。
(2) 人格の形成をめざして ア. 徳・知・体「三位一体教育」の推進	・体育祭への取り組み ・文化祭(梧桐祭)への取り組み ・「高校生新聞」の活用	ホームページに掲載している体育祭・文化祭(梧桐祭)の動画	授業、各種講座、体育祭・文化祭(梧桐祭)等の行事を通じて「三位一体教育」を推進しました。 また、生徒が、社会や生き方、進路について主体的に考える雰囲気づくりのため、平成 28 年度より「高校生新聞」を各クラスに置くようになっています。	

1 教 学 改 革	イ. 地元から愛される学校づくり	・クラブによる始業前の校門での挨拶運動、学校周辺の清掃活動	・学校関係者評価委員会での地域住民の方の意見	いくつかのクラブが、始業前に校門での挨拶運動や学校周辺の清掃活動に取り組んでおり、地元地域から評価を受けています。チアリーディング部・ダンス部が地元で開催されるすみれ祭り・城東区 SARUGAKU 祭に参加したのに加えて、美術部・イラストレーション部が、城東区 SARUGAKU 祭のポスター・チラシの作成を担い、地元との結びつきが強まりました。 また、ボランティア活動部が地元の老人ホームで入所者の方々と交流の機会を持っており、広報誌で大きく取り上げられたこともあり、ボランティア活動部は、地域子ども(小学生)支援活動「Sumire Smile Space」にも参加し、その様子が董地域活動協議会の Facebook に取り上げられています。
	ウ. 平和・人権教育の推進	・人権意識アンケート(5月) ・人権教育週間(6月) ・人権啓発週間(9月) ・人権フォーラム(11月)	各取り組みの実施	人権意識アンケート(5月)、人権教育週間(6月)、人権啓発週間(9月)、人権フォーラム(11月)に取り組んできました。
	エ. 「面倒見の良さ」と「厳しさ」の両面から迫る教育の実践	学力保障期間	学力保障期間の取り組み	クラス担任と教科担当者やクラブ顧問、クラス担任と保護者との連携をとりながら、学力・生活指導を進めました。問題を抱える生徒に寄り添う一方で、甘やかせることをせず、指導に当たりました。問題を早期に把握することで解決を早めるよう努めました。学力保障期間を設け、「面倒見の良さ」とともに「厳しさ」の両面から教育実践を進めました。
	オ. 「褒めて伸ばす」指導の実践			職員会議を通じて「叱るだけではなく、生徒のいいところを褒める」ことをすすめています。全校朝礼では、本校生徒に対する外部からの好評価(手紙やメール)を伝え、自信を持たせるようにしています。
	カ. 学校行事を通じて生徒の積極性を引き出す		ホームページに掲載している体育祭・文化祭(梧桐祭)の動画	平成 30 年度においても体育祭・文化祭(梧桐祭)は大きな盛り上がりを見せました。体育祭では、競技前に円陣を組んで気合を入れる姿があちらこちらで見られました。
	(3) 生活指導の充実 ア. 挨拶の励行	挨拶励行の呼びかけ	・学校関係者評価委員会での保護者・地域住民の方の意見 ・生徒の学校生活アンケート	保護者・地域住民の方々、本校を訪れる中学校教員・塾関係者の方々から「挨拶がきちんとできており、気持ちがいい」との評価を受けています。また生徒自身も学校生活アンケートで「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」との設問に 92%が好評価をしています。
	イ. 離学者対策の推進	不登校、問題行動、低学力による離学者を防止する体制を整えます。低学力者に対して取り組んでいる学期ごとの学力保障期間の取り組みを再検討します。	学力保障期間の設定	離学者は減少傾向にあります。引き続き不登校、問題行動、低学力等の問題について担任・学年・クラブ顧問・教育相談室が連携して対応するようにします。また、学期ごとに学力保障期間の取り組みを進めました。
ウ. マナーやモラルの向上	ネット社会の問題点について生徒が理解を深めるように取り組みます。	・「高校生活のしおり」 ・SNS に関する講習会の実施	ネット社会の問題点について記載した「高校生活のしおり」を HR で活用し、生徒が理解を深めるようにしています。 平成 28 年度、学校として Facebook 運用を開始したこともあり、全校生徒を対象に SNS に関する講習会を実施したことに続き、平成 29 年度・30 年度は、新入生である 1 年生を対象に実施しました。毎年 1 年生を対象に SNS に関する講習会を実施するようにします。	

1 教学 改革	エ. 個性を伸ばす生徒指導の実施			各コースの特長を明確にするとともに、生徒一人ひとりの個性を重視した指導に努めました。
	(4) 課外活動の活性化		クラブ戦績	本校のクラブ活動には、誇るべき成績が多くあります。多くの運動部、とりわけ強化指定クラブが、全国大会出場、更には「日本一」をめざして練習に励んでおり、実際、全国大会への出場、「日本一」を果たしたクラブもあります。
			クラブ加入率	しかし、本校がクラブ活動で誇っているのは、成績だけではありません。 運動部に 1000 名近くの生徒が加わり、文化部と合わせると全校生徒の半数以上がクラブに加入しています。多くの生徒がクラブ活動に参加し、地道にたゆまず努力している姿こそ、本校が誇りにしているものです。
	ア. 「強化指定クラブ」の強化	強化指定クラブ(アメリカンフットボール部、硬式野球部、サッカー部、ラグビー部、バレーボール部、テニス部、柔道部、ウエイトリフティング部)は、スポーツ推薦制度を活用し優秀な生徒の獲得に努め、熱心で充実した練習で全国大会出場を実現するようにします。		強化指定クラブの成績は向上しています アメリカンフットボール部、ウエイトリフティング部が全国大会への出場を果たしました。全国大会出場まであと一步のクラブもいくつかあります。更なる成績の向上をめざします。
	イ. 文化・芸術活動の充実	吹奏楽部の充実		文化祭(梧桐祭)でのクラス展示は、年々充実したものになっています。 吹奏楽部の活動が充実してきています。複数のコンクールに出場し、入賞を果たしました。また、文化祭での演奏会に加えて、体育祭・卒業式での校歌演奏にも取り組んでいます。
ウ. 「学業とクラブ活動の両立」をめざして	「学業とクラブ活動の両立」の呼びかけ	クラブによる試験前勉強会の実施	クラブ員の中には、強化クラブのレギュラーで頑張りながら、あるいは文化部の中心となりながら、学習成績でもトップクラスの成績をおさめている生徒が少なからずいます。 運動部の生徒がリードして、本校の活気ある雰囲気を作っているところがあります。クラブで頑張っている生徒と勉学で頑張っている生徒がお互いを刺激し合い、更なる高みをめざす雰囲気ができつつあります。	
エ. 生徒会活動の充実	生徒会執行部への指導		平成 30 年度においても、生徒会主催の「遊戯大会」(年1回、ドッジボール大会やキックベースボール大会を実施)を開催し、多くの生徒が参加しています。 また、全校朝礼において、集合・整列を生徒会に任せ、自主的に進められるようにしています。図書委員会の活動に加え、風紀委員が、駐輪場の整理とともに、平成 28 年度より校門での挨拶運動にも取り組むようにしています。	
(5) 国際理解教育の推進				
ア. 国際科における独自性の推進	1 年次での留学生と交流する宿泊研修、2 年次でのホームステイを含む 9 日間の修学旅行に加え、希望者を対象にした留学制度(1 年間または 3 ヶ月間)を設けていますが、英語力の向上のためのカリキュラムをより一層充実させるようにしていきます。			クラウドコンピューティングを導入するとともに、「English Presentation」の授業、外国人留学生との交流プログラム(1 年次に 5 回、内 2 回は宿泊を伴う、2 年次に 3 回)を実施し、主体性・積極性を養うとともに英語力やプレゼンテーション能力の伸長に取り組みました。 3 年次に選択科目として行う第 2 外国語の中国語、スペイン語の授業は、英語を使って授業を実施しています。

1 教学改革	<p>イ. 科・コースを超えた国際理解教育の推進</p> <p>(6) 大阪産業大学ファミリーの構築 ア. 中高連携体制の充実</p> <p>イ. 高大連携の充実</p>	<p>・大阪産業大学孔子学院と提携した中国での語学研修の実施</p> <p>・大阪産業大学国際学部と提携したニュージーランド研修・高大接続プログラムの実施</p> <p>生徒の高校への進学に合わせて担任も持ち上がり、産大附属中学から産大附属高校への進学を更にするめやすくします。</p> <p>・大阪産業大学孔子学院と提携した中国での語学研修の実施</p> <p>・大阪産業大学国際学部と提携したニュージーランド研修・高大接続プログラムの実施</p>		<p>大阪産業大学孔子学院と提携した中国での語学研修では、上海外国語大学において、英語で受ける中国語の授業のほか、様々な体験をしてきました。孔子学院には、他の国の高校生とともに授業を受けることを求めています。</p> <p>さらに、大阪産業大学国際学部と提携したニュージーランド研修・高大接続プログラムを実施しました。</p> <p>生徒の高校への進学に合わせて担任も持ち上がるようにします。</p> <p>大阪産業大学の孔子学院や国際学部と提携した取り組みをすすめています。</p>														
2 進路指導の発展	<p>(1) 進路指導部の充実 ア. 生徒の多様な受験(進路)への対応</p> <p>(2) 附属高校から大阪産業大学への内部進学対策 ア. 高大連携による進学指導の充実</p> <p>(3) 他大学への進学対策</p> <p>ア. 特進コースの進学対策</p> <p>イ. Classi の導入</p>	<p>キャンパス訪問、出張講義、入学前教育等を通じて、大学進学への目的意識がより一層高まるようになっていきます。平成 27 年度に新たな取り組みとして、OSU エルダープロジェクトの本校卒業メンバーから、本校 1 年生に対して話をしてもらい、1 年生の時から大学への興味・関心が広がるようにしましたが、この OSU エルダーとの交流プログラムを更に発展させます。</p> <p>さらに、新たに「大学における模擬講義」「高校保護者による産大見学会」を実施するようにします。また、卒業生への高校・大学合同の面談指導等、フォローアップを引き続きすすめるようにしていきます。</p> <p>・週 39 時間授業 ・特別講座 ・早朝テスト ・午後 8 時まで開放している自習室 ・学習合宿 ・GTEC 受検</p> <p>大学入試改革に備え、次年度から全生徒への Classi 導入を決定しました。</p>	<p>大学合格者数(実数)</p> <table border="1" data-bbox="1108 1110 1394 1406"> <tr><td>卒業生数</td><td>716</td></tr> <tr><td>大阪産業大学</td><td>222</td></tr> <tr><td>国公立大学</td><td>3</td></tr> <tr><td>関関同立</td><td>22</td></tr> <tr><td>産近甲龍佛</td><td>47</td></tr> <tr><td>関西外国語大学</td><td>20</td></tr> <tr><td>その他の大学</td><td>279</td></tr> </table> <p>・キャンパス訪問の実施 ・出張講義の実施 ・エルダーによる講話の実施 ・大学における模擬講義の実施 ・高校保護者による産大見学会の実施</p> <p>左記取り組みの実施</p>	卒業生数	716	大阪産業大学	222	国公立大学	3	関関同立	22	産近甲龍佛	47	関西外国語大学	20	その他の大学	279	<p>大学との協議の上、キャンパス訪問、出張講義、入学前教育、エルダーとの交流については内容を充実させ、さらに「大学における模擬講義」「高校保護者による産大見学会」を実施しました。</p> <p>国公立大学への合格者は、大阪市立大学 1 名、島根大学 1 名、山口大学 1 名であり、関関同立は計 22 名、産近甲龍佛は計 47 名となっています。</p> <p>週 39 時間授業、特別講座、早朝テスト、午後 8 時まで開放している自習室、学習合宿等を通じ、学力の伸長をはかりました。</p> <p>大学入試で英語4技能を総合的に評価することが計画されており、それに対応すべくコース全体で GTEC を受検しています。</p> <p>Classi の活用をどう広めるかが、課題となっています。</p>
卒業生数	716																	
大阪産業大学	222																	
国公立大学	3																	
関関同立	22																	
産近甲龍佛	47																	
関西外国語大学	20																	
その他の大学	279																	

2 進路指導の発展	(4) キャリア教育の充実 ア. 選択を広げる情報提供	情報提供	本校独自の「保育実習」を実施	本校独自に隣接する関目学園の協力により「保育実習」に取り組みました。
3 広報	(1) 入試広報の充実 ア. ホームページの活用強化 イ. Web 出願の導入決定	平成 26 年度全面リニューアルしたホームページの活用強化をはかります。校内でホームページを担当する体制を強化し、新たな情報が次々と掲載されるようにします。Facebook、Twitter の活用を始めるようにしていきます。ホームページの全面リニューアルの上に立ち、紙媒体の広報ツールと電子媒体の広報ツールのバランスを検討するようにします。 次年度からの Web 出願の導入を決定しました。	ホームページ	最新情報を掲載するようホームページの充実に努めました。 そのホームページに体育祭・文化祭（梧桐祭）の動画を掲載し、本校生徒の元気で明るい姿を多くの人に見てもらっています。 Facebook については、本校独自のキャラクターを設定し、平成 28 年度より運用を始めました。 また、閲覧頻度を調査し、携帯端末用にホームページをリニューアルすることを検討し、平成 29 年度にモバイルファーストに改修しました。 Web 出願を担当する校務分掌を確立し、対策を講じていきます。
4 人材育成	(1) 優秀な職員の確保と研修の促進 ア. 優秀な教育職員の確保 イ. 教員研修の設計と運営	中・高合わせて平成 29 年度末から僅か 5 年の間に 9 名、専任教諭数の約 14%が定年退職することになります。中・長期的な観点から、複数年度の退職者数を、年度を越えて採用できる柔軟な措置を講じることが求められています。 教育研修部の機能を強化し、授業アンケートの結果を踏まえた自己検討がすすむようにしていきます。	専任教諭の採用 授業アンケートの実施	中・長期的な観点を踏まえて、教科・年齢のバランスを考慮した採用を実施しました。 授業アンケートの結果を踏まえ、自己検討を求めました。
6 防災・安全対策	(1) 防災対策の徹底 ア. 防災意識の向上 (2) 安全対策の徹底 ア. 通学時における安全対策の強化	防災訓練 ・「交通安全週間」 ・「登下校指導」	・「交通安全週間」の実施 ・「登下校指導」の実施	防災意識の向上を図るため、1 学期に防災訓練を実施しました。 1 学期に「交通安全週間」を設け、特に自転車の安全な乗り方について DVD を見せる等、意識の向上を図りました。登下校指導を実施し、通学時の安全指導を行いました。